

— さて、3年ぶりのアルバムリリースですが、あなたにとってこの3年間はどんな時間だったのでしょうか？

今では3人の子供がいるので、家では父親としての時間が中心となったよ。オムツを替えたり、学校への送り迎え、サッカーの練習といった父親としてありきたりのことさ。それからまた僕達が始めた団体の活動にも注力した。「コクア・ハワイ・ファンデーション」という団体を結成し、学校で環境問題についての教育にかかわっている。

— お子様のお話が出ましたが、この3年間でだいぶ成長されたのではないかと思います。どういふ瞬間にそれを感じますか？

そうなんだよ。すごいことだね。彼らの寝顔を見ながら、いつの間にこんなに体が成長したのだろうと驚くこともよくある。そうかと思うと時の流れがとてもスローだと感じることもある。そういうスローな瞬間はいいものだね。時間が邪魔にならないと感じられるの、かいいんだ。毎日彼らのためにそばにいてあげるようにし、可能な限り一緒に過ごす時間を確保するようにしている。音楽を学びたいと言われたら歌を教えてあげたり、サーフィンに連れて行ったりするんだ。僕が子供と一緒にやることの中でお気に入りなのは、海に行き海中マスクをつけてシュノーケリングすることや、サーフボードに乗ってサーフィン、セーリングなど、とにかく海に行き何かをすること、それから音楽をやるという二つなんだ。音楽スタジオを持っていて、子供達はドラムを叩いたり、ギターを弾いたり、キーボードを使って音を出したりということが好きなんだ。友達もやってきて一緒にいろいろ

な楽器を演奏するのは楽しいものだよ。

— また今年あなたはあなたと奥様のキムにとっては特別な年かどうかがありました。交際をスタートして今年でちょうど20年を迎えられるそうですね？ 大学で知り合ってご結婚に至るそうですが、プロポーズの言葉やシチュエーションなど覚えていらっしゃいますか？

二人でハイキングをしている時、地面に指輪が落ちているのを見つけたふりをしたんだ。そしてその時にプロポーズしたよ。

— プロポーズの言葉は？

すべては言えないなあ。僕の立場はちょっと変わっていて、歌の中でパーソナルな内容を公開してはいるけれど、どんな情報を分かち合うかというのは注意して選んでいるんだ。そして、僕達の中にだけそっとしまっておきたいこともあるんだよ。

— もちろんです。なぜその様なことをうかがったかと言いますと、今回のアルバム『FROM HERE TO NOW TO YOU』は、まさに奥様に向けた感謝や変わらない愛を綴った楽曲ばかり収録されていると思われるからです。タイトルにもそのような思いが込められているのでしょうか？

この中の多くの曲、特にラブソングに「ユー」という言葉がフックとして何度も出てくるのが気に入ったんだ。だからそれがタイトルにも使われるというのは大事だと感じた。それからまた『フ

ロム・ヒア・トゥ・ナウ・トゥー・ユー』というのはリスナーに対する贈り物でもある。そういう風に聞こえると言われ、僕もそういうつもりだったので、そのアイデアが気に入ったんだ。そういうわけで、いろいろな意味が込められている。レコードを出す際にタイトルを決めるという作業はいつも興味深いものだ。それぞれの曲に個性があり、それらを一つにまとめる様な、それら一連の曲を代表する何かを見つけなければならない。『FROM HERE TO NOW TO YOU』は、このアルバムの中の多くの曲に共通するテーマであると感じた。

— 本作のレコーディングのプロセスについてうかがいますが、今回もいつものようにハワイのマンゴーツリー・スタジオで、ザック・ギルといったバンド

メンバーと一緒にレコーディングされたのですか？

そうなんだ。ザック・ギルやアダム・トボール、メルロ・ボドゥルアスキといった、これまでずっと一緒にやってきた仲間とともにやったよ。マンゴーツリーという聞こえがいいが、単なるガレージにすぎないんだ。僕の自宅にある、クルマ2台用のガレージに壁を幾つか作って、空間を分け、レコーディングできるようにした。楽しいよ。

— サウンドに関しては原点回帰され余計なものを削いだアコースティック作になっています。デビュー当時から聞いているリスナーにとっては、とても心地よい音に響くかと思いますが、そういうことは意識されて目指されたのでしょうか？

何が起こったかという、大きなフェスティバル

や、野外の会場といったある一定の会場でコンサートをする、自然と無意識のうちに、頭の片隅でその様な状況を意識しながら曲を書いているんだ。この曲は、そういう空間を埋めつくすべきだと思いついた。去年、ハワイツアーで、小さな会場を回ったので、一番最近やったライブは小さな会場だった。だから、いざ曲を書き始めた時、よりこぢんまりとしたところのイメージが浮かんだ。題材もそうだったが、サウンドもまたそうだった。レコーディングにあたって、そういう会場のことを思い描いていたのかもしれない。今回のツアーもそういう小さな会場にまた戻って、これらの曲を紹介しようと思っている。

— アルバムの中でサーファーに聴いてほしい曲はどれでしょうか？

サーファーに聴いてほしい曲？ そうだね。サーファーの諸君、君達が一番びったりなのはどの曲かなあ。えーっと、「ショット・リバー・ショット」は、僕がまた10代のサーファーに戻ったとしたらいいと思うだろうね。よくヘッドフォンをつけて、サーフィンする前に音楽を聴いていたものだ。これはとてもアップビートな曲だ。いいリズムが頭から離れず、サーフィンするにはいいリズムとなるだろう。

— 今回のアルバムを波のサイズに例えるならば？

このアルバムは6〜8フィートのオフショアだね。サーファーなら皆わかるような、バレルというよりはむしろ……。えーっと、何かいい例えはないか考えているところなんだが、そう、サンセットビーチ、サンセットポイントといった感じだね。◎

# JACK JOHNSON

ジャック・ジョンソン語る。

あのジャック・ジョンソンが、3年ぶりにオリジナルアルバムをリリースした。その名は『FROM HERE TO NOW TO YOU』。原点回帰ともいべきアコースティックなサウンドが、早くも人気を呼んでいる。

It has been 3 years since Jack Johnson released an album... His new Album "FROM HERE TO NOW TO YOU" has become an instant hit due to it's amazing acoustics.... Jack talks to us about his "NOW"...

写真=エメット・マロイ インタビュー=松永尚久 編集=オフシーズン  
Photo: Emmett Malloy Interview: Takahisa Matsunaga Edit: OFF SEASON

## THE SEA LOVERS



Jack Johnson  
ジャック・ジョンソン  
ミュージシャン。1975年、ハワイ・オアフ島出身。高校時代にバイブラスターズに出場した筋金入りのサーファーでもある。海での怪我でプロへの夢をあきらめ、音楽の道へ。現在、サーフミュージックのアイコンとして活躍する

FROM HERE TO NOW TO YOU  
2300円 ユニバーサルミュージック

